

フェリス女学院短期大学
音楽科同窓会
Fグループ会報

第六号



昭和五十二年六月一日発行

フェリス女学院短期大学
音楽科同窓会

〒231 横浜市中区山手町五二一
電話〇四五(641)〇二四五番

三十年の歲月

前同窓会長 大島 久子

厳しかった寒さも、春の訪れと共に柔ぎ、桜の満開時から新緑の季節へと移っています。大自然の樹木は、社会がどう変動しようと、季節の移り変わりと共に、新しい息吹きを示し、生命感を溢れさせて、毎年私達人間に新鮮な驚きを与えてくれます。

戦後間もない昭和二十二年、大自然だけは生き続けて春を告げていたのに、不安な社会情勢の中で、食べ物も着る物もない当時、殆どの人は、生きる目標すら失いかけて、虚脱感というか、精神的瀕死のような時期に、私達の母校フェリスの音楽科は誕生しました。そしてこの四月で戦後育ちの音楽科も三十年を歩み続けました。私達一期生は長い学業中断のあとに入学したので、入学時の一般学力は勿論の事、音楽の力も大変粗末でしたが、フェリス時代の学ぶ喜び、音楽をする喜びは、精神を生き返らせ、生きていく証を得た思いでした。音楽科はその後、毎年新入生を数多く迎え若返り、多くの卒業生を社会人として世に送り出しています。フェリスという共通の場で音楽を学んだ私達同窓生は、キリスト教主義の背景から云っても、音楽という宝物を自分のものにした事からも、この生きる喜びを共有財産にしました。毎年、自然の樹木が春の息吹きを感じさせてくれるように、私達も毎年新しい発見や悟りしめき、自分なりの精一杯の努力に快さを噛みしめて、新鮮な息吹きを持ち続けたいものです。#自分の精神は、本当に生きていくだろうか、と問い続けて参りましょう。

昨年のことと、

将来のこと

短期大学長 佐藤 馨

昨年度は、短期大学設立二十五周年を記念していくつかの行事が行われ、いずれも多くの人たちの協力のもとに成果をあげることができました。とくにNHK交響楽団との共演は好評で、郷司浩平理事長をして「これがフェリスだ!」といわしめたものです。アメリカのミッションナリーから派遣されている宣教師は、「わたしは、天使の声を聞きました」と、その感動を語っていました。これら記念行事に、音楽科の同窓のかたがたが寄せられた御協力に対して、ここに改めて御礼を申し上げます。

さて、これから音楽科が進んでいく道は、かならずしも平坦というわけにはまいりませんが、国際的視野に立つて、日本におけるいきいきとした音楽のアカデミズムを目ざして、先生も学生もひとつとなつて歩んでいきたいと思っています。先生がたの教育熱心はいまや伝統的といってもよいのですが、近年それに加えて、演奏活動がきわめて活発になってきました。これほど先生がたがさかんに演奏をする学校はほかにないのではないかと、思われるほどで、学生のためにとても良い刺激になっています。本年度から音楽科第一回生の田中順教授が科長に就任されたこととあわせて、フェリスの音楽教育の充実を示すものと、わたしは考えています。しかし、さらに音楽科の充実をはかるためには、卒業生のさかんな音楽活動がなくてはなりません。同窓の御活躍を心から願っています。

シューベルトの眼鏡

大島 君子

昨秋、六週間の休暇をいたゞいてヨーロッパの一人旅をしました。ウィーンのフェリス研修センターに滞在して、ウィーン国立音楽大学のザイデルホーフアー教授のレッスンを受けるのが目的でした。が、減多にない機会をなるべく有効に使ってあちこち飛び廻り、本場の空気をたくさん吸って見聞を広めたかったのが本音です。パリ、ミュンヘン、ザルツブルグを廻って、それぞれの地で忘れ難い貴重な体験を重ねウィーンに着いたのは十月初め、見事に繁った街路樹が黄色に染まりかけた、秋の陽さしのやさしい午後でした。フェリスセンターは、ウィーン旧市街のはづれに当る高級住宅地にあり、こゝに約一ヶ月滞在して、李清先生(グラーツ国立音楽大学助教授、フェリス短大音楽科講師)御夫妻、管理人の小泉恵美子さん、居合せた研究生の方達のお世話になりながら、有意義な日を過ごすことが出来ました。レッスンを受けたザイデルホーフアー教授は音楽の固まりのよくな素晴らしい先生で、一緒に座って歌って下さるだけで、それまで弾けずに苦しんでいた箇所がさっと出来るようになってしまふ、そんな感じのレッスンでした。たとえわずかでも、こうした先生の芸術にふれることが出来たのは大変幸せでした。

御存知の方も多いと思いますが、ウィーンは「音楽の都」の名に恥じず、どこへ行っても音楽だらけの街です。ふと行き合った銅像がハイドンをモチーフとしてあり、通りがかった家の標札を

見ると、それがベートーヴェンの住んだ家であったり、シューベルトの行きつけの居酒屋であったりします。勿論百年の昔がそのまま残っているわけではありませんが、かつてベートーヴェンが手をうしろに組んで肩を丸めて行きつ戻りつしたであろう家の土間を歩き、シューベルトが往来の馬車を眺めながら楽想を練ったであろう窓から外を見てみるのは、理屈でなしに大きな体験です。或る日曜日の午後、私はヌスドルフアーシュトラッ



シューベルトの生家
二階の廻廊から見た中庭と裏門
この廻廊の前が展示室になっている

セにあるシューベルトの生家を訪れてみました。現在こゝはシューベルト記念館として、種々の記念品を集めて陳列してあります。自筆の楽譜、彼の弾いたピアノ、当時の有様を画いた面白い絵や肖像画など数々の品の中で、何故か強烈に私の目を射たのは、シューベルトの眼鏡でした。肖像画の中で昔から見馴れたあの小さな眼鏡、それを見た途端に、その下でやさしく澄んでいたであろう

彼の眼が、広い額とちぶれた髪が、私の中に生き／＼とよみがえって参りました。それまで額縁の中の虚像にすぎなかったシューベルトが、突然生命のある人間として微笑みかけてくれたのです。これは私にとって、かなりショックな出来ごとでした。そして此の体験が、私の中の「音楽」を少し違ったものにしてくれたように思います。

それまで私の聴いていた音楽は、強いて言えば、ベートーヴェンやシューベルトが壇上で演説しているような音楽でした。しかしこれらの人物が生きた人間になった時、その音楽はもつと身近に親しく聴く、彼等のおしゃべりに聴こえて来たのです。これまで自分の外側でだけ鳴っていた音が、自分の内側でも一緒に鳴り始めた、とも言えるでしょう。とも角、音楽そのものが、今までよりずっと楽しく、香ぐわしいものになったのはたしかです。これからは、この体験を演奏の上に生かしていくことが課題になるわけですが、これは一朝一夕に出来ることではないようです。ピアノの音を大上段に振りかざして、聴衆に説明し、納得させるような音楽ではなく、作曲家と演奏者と聴いている人が一つのテーブルを囲んで、楽しさ、悲しさ、怒りなど人生のさまざまなを一緒に語り合う、そんな音楽が出来たらどんなに素晴らしいでしょう。いつの日にか、そんなピアノが弾けるようになるのを夢みて、私ののんびりしたペースで、かたつむりのようにゆっくり勉強して行きたいと思いました。

シューベルトの眼鏡は、こうして私の音楽をみる目を少し豊かなものにしてくれました。十月末日、うしろ髪を引かれる思いで出発したウィーンは、冷たい北風に最後の枯葉が吹雪のように舞う寒い朝でした。

音楽科からのたより

田 中 順

連休が終ると、あわただしい学年始めの騒がしさから随分と落ち着いた学校生活にもどります。

新入生一一七名、二年生一二七名、専攻科五一名、研究生六名計三〇一名の在學生で五二年度の私達のフェリス音楽科は順調に歩み始めました。新しい授業科目が開講され、後にあげる先生方を加えて専門科目を受けもつ先生は六六名、一般教育の先生を加えると百名に近い先生方がお教え下さっています。六年前に建った五号館の音楽科校舎も溢れる様で、本校舎横の二号館へ、家政科六号館へと學生達は五月の新緑の山手の道を駆けずりまわっています。

去年は創立二十五周年の記念の年でした。音楽科は青年の潑刺さと理想をもって歩みつづけて行きたいものです。今年度の音楽科のお知らせをしましょう。

▽新しく開講された科目と新任の先生

- 芸術概論―野村光一、○民族音楽学―桜井笙子、○音楽特殊講義―中野博詞、○声楽作品研究―ヘルムート・ドイチ、○伴奏法演習―安藤友侯、○音楽史(近代・現代)―松前紀男
- 鈴木寛一(声楽)、野々口萌子(ソルフェー

▽訃報 須田真知子先生(音楽史・音楽学)

乳がんのため一年間療養されましたが四月十日早朝、天に召されました。一才の小さなお嬢様を残され、余りに早い御逝去でした。

ジ)、美山良夫(音楽学)、松本日之春、北爪道夫(作曲理論)、李清―海外在住講師―
 ▽校務分担は左記のようになりました。
 院長 宮本武之助

短大学長 佐藤 馨 家政科々長 奥山正夫
 音楽科々長 田中 順

音楽科教務部長 久保浩 学生部長 渡辺 明

▽海外研修所が増設されました。

○ウィーン教育センター

所 Stengasse 33-18 1030 Wien Österreich

設備 三室 台所 シャワー

宿泊料(一泊 食事なし)

学校関係者(同窓生を含む) 一五〇〇円
 二〇〇〇円
 同伴者



○パリ教育センター

所 Cité Internationale des Arts

18, Rue de L'Hôtel-de-Ville, PARIS 4e

France

Tel. 272-00-97

508-85-90

室名 YOKOHAMA-FERRIS
 設備 一室 練習室 台所 浴室

宿泊料その他は未定

学生、教職員、同窓生の方々の研修を目的として設置されたわけですが、他の学校にあまり例のないことと自負しています。勉強のために是非とも利用をおすすめします。詳細は事務室へ。

▽行事予定

○受験講習会 夏 七月二十六日(火)―三十日
 冬 十二月二十六日(月)―二十八日

○学内演奏会 後輩の演奏をおきこみ下さい。

十一月十四日(月)、十六日(水)、二十二日(火)、二十四日(木)―声楽・ピアノ・ヴァイオリン・フルート・オルガン 午前十時より午後四時半 於 県民ホール
 一月二十七日(金)―音楽学、音楽教育論文・作曲作品・アンサンブルの発表 午前十時より 五四一教室

○入学試験 二月十三日から十八日まで
 合格発表 二月二十一日(火)

○卒業演奏会 三月十五日 於 県立音楽堂
 ▽五十一年度新人演奏会出演者

読売新人演奏会―専攻科卒―鈴木みどり、竹村洋子
 NHK新人演奏会―植山春美
 横浜市新人演奏会―菅沼佳子、石井則子、岡田早苗

神奈川県新人演奏会―鈴木みどり、石井則子、鈴木まり子、宮野充代、菅沼佳子、林由美

西日本新人演奏会―横井説子(研究科卒)
 オルガン新人演奏会―川内望

北九州新人演奏会―竹村洋子、植山春美、酒井雅代

音楽科同窓会役員

本年度は役員改選の年にあたりまして、次の新役員が決まりました。皆様の同窓会をよいものにする為に努力致しますので、よろしく御協力下さるようお願い致します。なお、前期役員の皆様の御活躍を深く感謝致します。

会長―大島君子 白菊会幹事―田中 順 書記
 会計―熊取谷寿子、 榎山美保子 演奏会幹事―中島恭子、木村晴子 評議員―大島君子 当番幹事―江原郁子、村田晶乃 会報係―熊本美也子
 ○第九交響曲演奏会 日本フィルハーモニー協演
 十二月十八日(日) 二時より 於 県民ホール
 十二月二十二日(木) 七時より 於 〃
 指揮・エルヴィン・ルカーチ

○第二回夏季ヨーロッパ研修旅行
 期間・八月二十二日(月)〜九月九日(金)
 費用・五五〇、〇〇〇円

コース・東京―パリ―チューリッヒ―グリンデ
 ルワルド―ザルツブルグ・ミュンヘン
 問合せ・音楽科学生課 横浜六四一―〇二四五



Fグループ研修会、

演奏会の報告及び予告

○研修会 一九七六年九月十八日(土) 李清グラ
 ーツ国立音楽大学助教授公開レッスン
 ○次回研修会予告 七月十五日(金) 十時〜十二
 時半 音楽科ホール // 歌曲と伴奏法 // 講師 ヘ
 ルムート ドイチ ウィーン国立アカデミー教授
 ○演奏会 一九七六年十月十六日(土) 福岡大博
 ホール Fグループ24期生第二回演奏会、十二月
 七日(火) 日本工業倶楽部 大島君子門下生によ
 るあしび会グループプリサイタル、一九七七年五月
 二十三日(月) 県民小ホール 五十一年度研究生
 によるFグループ新人演奏会、七月一日(金) 神
 奈川県立音楽堂 三つのピアノ協奏曲の夕べ 熊
 本美也子、柴田由紀子、大熊慶子が日本フィルと
 協演

Fグループの会員の方々の演奏会、特に地方の
 方々の御活躍をお知らせいたしたいと思いま
 す。又、研修会についての御意見、御希望等、ど
 うぞ御遠慮なくお聞かせ下さいませ。

山手音楽教室の御案内

幼稚科 (満4才以上)
 本科
 受験科 (高3以上)
 実技科 (ピアノ、ヴァイオリン)
 本教室 毎土曜日 午後
 4月第一土曜日 受付
 10月第一土曜日
 分室 毎月曜日 午後
 4月第一月曜日 受付
 10月第一月曜日

同窓生の二世達も大勢いらしていま
 す。いつでも見学にいらして下さい。
 入室案内御希望の方は御連絡下さい
 お送りします。

横浜市中区山手町52-1 〒231
 フェリス短大音楽科内
 Tel. (641) 0245

昭和51年度会計報告

総収入	974,486	総支出	762,016
終身会費	540,000	研修会費用 (同窓会総会兼)	217,650
研修会入会金	120,000	リサイタル他 活動資金	150,670
研修会会費 (同窓会総会兼)	122,100	印刷代	91,800
銀行利息	187,816	通信費	166,936
その他	4,570	音楽科事務所 役員会・ 幹事会費用	30,000
		慶弔費	26,640
		その他	75,000
			3,320

前期繰越金 4,439,184

現在高 4,651,654 (昭和52年4月30日現在)

編集後記

二十五周年の興奮もさめやらぬうちに年があけて、又Fグループ会報をお届けする時期がまいりました。同窓生の皆様それぞれに、家事、育児、仕事にと、お忙がしい事と思います。そろそろ子供の手がはなれたので再び勉強開始と云った声もチラホラ聞かれます。皆様の体験談、苦勞話、何でも結構ですから同窓会あて一筆お送りいただけたらうれしく思っております。同窓生の皆様の消息、生きた声を反映させた会報にしたいと願っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

17回 熊本美也子